

日本を「戦争する国」にさせない

安倍政権が「平和安全法制」の名で11本の法案を国会に提出し、激しい論戦が行われています。この中で憲法9条を全面的

に破壊する戦争法案の3つの重大問題が浮き彫りになっています。



日本共産党

①後方支援 戦闘地域で米軍支援

戦争法案は、米国が世界のどこであれ、アフガン・イラク戦争のような戦争を起こした際、これまで政府が「戦闘地域」と呼んでいた場所まで自衛隊を派兵し、米軍への軍事支援をできるようにするものです。

政府のいう「後方支援」=弾薬・燃料の補給、武器・兵員の輸送、壊れた戦車の修理などは国際的には「兵たん」と呼ばれます。攻撃の一番の目標とされるのは軍事の常識。自衛隊が「兵たん」している場所が戦場になるのです。

②PKO法改定 「殺し、殺される」危険

この法案は、形式上「停戦合意」がされているが、なお戦乱が続いている地域に自衛隊を派兵。治安活動にとりくませ、任務遂行のための武器使用を認めるものです。

アフガニスタンの国際支援部隊 (ISAF) のような活動に参加する可能性があります。ISAFは米軍主導の「対テロ」掃討作戦と渾然一体

となり、2001年からの13年間で3500人も戦死者が出ました。自衛隊員が「殺し、殺される」危険は格段に高まります。

自衛隊員は…		自殺者数	
アフガン	27人(海自)		
イラク	21人(陸自)、8人(空自)		
軍事支援をした自衛隊員は…		米軍兵士は…60万人がPTSDに。1日平均22人 年間8000人が自殺	

戦争法案 3つの大問題 米国いいなりで9条破壊

③集団的自衛権

米の無法な戦争に参戦



米海兵隊との共同演習で射撃訓練をする陸上自衛隊員

日本への武力攻撃がなくても、集団的自衛権を発動し、自衛隊が海外での武力行使に乗り出すこととなります。

日本政府は、米国の無法な侵略戦争だったベトナム・イラク戦

争を支持しましたが、今なお誤りを認めず検証もしていません。

米国いいなりで無法な戦争に参戦・支援する——ここに集団的自衛権行使の一番の現実的危険があります。

国連での米国非難決議に日本政府は…

1983年		1986年		1989年	
非難決議	賛成 108	非難決議	賛成 79	非難決議	賛成 75
	反対 9		反対 28		反対 20
	棄権 27		棄権 33		棄権 40
	日本は「棄権」		日本は「反対」		日本は「反対」

日本共産党

9条生かした平和の外交戦略を

「北東アジア平和協力構想」を提唱

いま必要なのは、憲法9条を生かした平和の外交戦略です。北東アジアには緊張や紛争の火種がありますが、それに軍事で構えたら、「軍事対軍事」の悪循環に陥るだけです。日本共産党は、東南アジアで実現している“紛争を話し合いで解決する枠組み”を北東アジアにも拡大する「北東アジア平和協力構想」を提唱しています。